

## ニュートラ、ハマトラ、プレッピーと“一億総中流”

シューフィル たち 城 いっ せい 生

1970（昭和45）年の国勢調査で日本の総人口は1億人を突破する。そして同年の内閣府「国民生活に関する世論調査」では、自らの生活程度を“中流”とする回答が9割に達し、“一億総中流”と評された。以降70～80年代を通じ経済、雇用、生活の安定が続きバブル期に繋がる高度消費社会を生み出した。

ファッション、そして靴市場も“一億総中流”の恩恵を受ける。ミニスカートやブーツの大ヒットに始まる流行商品の連打、DCブランドや海外有名ブランドの浸透、ファッションビルや小売チェーンの躍進など、豊かな消費者に支えられ世界有数のファッション消費国になっていった。

その豊かな中流が支持したファッションのひとつがニュートラで、70年創刊の雑誌「an・an」が神戸発の女子大生スタイルとしていち早く紹介している。ブレザーやワンピース、カーディガンなどの定番アイテムをコーディネートするコンサバ(保守的)ファッションだが、当時の“良家の子女”への憧れがその背景にあり、表現アイテムとしてグッチやセリーヌ、フェンディなどのブランドバッグや良質な靴を合わせるのがポイントであった。

その後、女子大生向けファッション誌「JJ」が75年の創刊時からニュートラ特集を連載す

ると、急速に広まっていった。現役女子大生を読者モデルに起用したことが要因とされているが、背景には“一億総中流”による高等教育の普及、女子大生の急増、そしてリッチライフ志向の広がりある。靴市場では、カーフやキップ使いの高品質なパンプスや金具飾付きパンプス、ジュート巻ウエッジなどがニュートラアイテムとしてヒットした。

79年には横浜・元町発のハマトラがブームとなる。これもフェリス女学院の生徒ファッションが基本で、ミハマのカッターシューズ、キタムラのバッグ、フクゾーのウエアが必須アイテムだった。そして79～81年には、アイビーの進化系ともいえるプレッピーファッションが流行する。カラフルで遊び心のある上流階級の週末の私服といったコンセプトで、靴ではデッキシューズやアウトドアシューズが履かれ、ニュートラのカジュアルスタイルでもあった。

80年代中期以降の“お嬢様ルック”、高級ブランド人気もニュートラの延長線上にあるが、バブル崩壊、ストリートファッション台頭を経て、一億総中流は崩れ格差社会となり、ニュートラの教科書「JJ」は2021年に休刊した。



金具使い、上質素材がポイントだったニュートラパンプス



直営店はもちろん百貨店の販売会でもミハマの靴は大人気だった



おしゃれな紺ブレ+カッターシューズで決めたハマトラファッション女子